



5月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園

2024 年5月1日発行

＊ ＊ 保育目標 讃嘆 一たたえますー

- ・ 降誕会には、みほとけさまにお参りし、ほとけさまのお話を聴く。
- ・ 春の自然にふれて、友だちや保育士と関わりながら、遊びを楽しむ。

今月の行事予定

7・20日 礼拝 (4・5歳児) 10日 避難訓練
発育測定 (14日/あひる・ひよこ、15日/ぞう・
きりん、16日/うさぎ・いす、)

17日 降誕会お寺参り(4・5歳児)

20日 クッキー作り 21日 誕生会

24日 さつまいもつるさし (3・4・5歳児)

＊ 佐山東と須川方面 ＊ 雨の時は延期

口座引落(26日 4・5月分)



【法話】 とうたんえ 降 誕 会

新年度が始まり、ひと月。肌寒さの残る朝晩もありましたが、ようやく昼間は、汗ばむ季節となりました。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、承安3年(1173年)5月21日、京都の東南、日野の里で生まれられ、幼くして両親と別れ、9歳で出家得度し、それから20年間、比叡山で血のにじむ修行をされました。しかし29歳の時、山を捨て法然上人の門に入られました。自力の世界から他力(仏力)の世界への転入です。いつも闇の中で生きている者は、それが闇であることがわかりません。闇が闇と気付かされ、闇が破られていくのは、光のはたらきです。私の心の闇を晴らしてくれるその光は、他力(仏力)・お念仏の教えであると教え示して下さいました。

親鸞さまのお誕生日、5月21日を「降誕会」といいます。保育園では毎月21日にその月の子どもたちの誕生会をしています。今年は5月に降誕会お寺まいりをします。また、月曜日に礼拝を行います。「しんらんさまについて」、「ほとけさまについて」、「わたしについて」いろいろなお話しをしますので、ご家庭でも尋ねてみてくださいね。

今年は親鸞聖人が、浄土真宗の教えを私たちに伝えて下さって、800年目になります。

合 掌

『 つながるかたち つながるころ つながるいのち 』

4月30日(火)、広島わくわく創造アトリエの中木先生がたくさん積み木を持って保育園に来ていただき、ほしぐみ(5歳児)が積み木遊びの体験をしました。

遊びの中で、『立方体』や『直方体』など難しい積み木の名前を覚えていました。また。「積み木は生きているのでしょうか？死んでいるのでしょうか？」の先生の質問に、「動かないから死んでいると思う。」「木は葉っぱの仲間だから生きていると思う。」と様々な意見を述べていました。そして「木は息を吸っていて膨らんだり萎んだりしてるよ、大切に遊ぼうね。」と中木先生との約束をしっかりと守っていました。

子どもたちは立方体で自分の背の高さまで積み上げたり、ほしぐみ21人が協力してみんなが入れる積み木のかまくらを作り上げたり、かまくらの中をビーズに乗って箱で通り抜けたり、楽しさいっぱいの2時間を過ごしました。積み木遊びの中でワクワクしながらも、子どもたちは、左右の高さを同じにするにはどうすればよいか、もっと高く積み上げるにはどうすればよいか、常に大きさやバランスに注意して、いつの間にか数量や形態に対する学びをも深めていました。

白木でできた積み木は、子どもたちの見立てる想像力を育て、創造性をも引き起こしてくれます。その上、友だちと協働する事が早く正確に仕上がることを体験し、自然に役割分担をしたり、励まし褒め合い、友だちとのつながりを作っていました。

積み木のかたちをつなげて楽しく遊ぶこと。友だちとの心もつながり、それはまた、いのちをつなげていくことにもつながります。木の香りと、光と影の中、

「みんなちがってみんないい、みんなちがうからつながっていく」を感じました。

